サポート情報記事

選択した日付のポリシーコンプライアンスの計算方法

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

レポート日を選択する 4

過去の状態のルールを理解する 4

主要な割合を計算する 5

マトリックス、推移、中央値を比較する 5

結果が不十分となる場合を知る 5

一件の割り当てを手作業で再構成する 6

保存した二つのレポートの違いを説明する 6

共有前にレポートを検証する 7

Compliance Dashboardの日付フィルターは、現在利用できる割り当てレコードから過去のビューを計算します。進捗の比較に役立ちますが、イベントを一つずつ保持する完全な履歴データベースではありません。ポリシー範囲、部門フィルター、現在のレコード状態を踏まえて結果を解釈してください。

レポート日を選択する

レポートアクセス権限でCompliance Dashboardを開き、**指定日時点の状態**を選択します。今日または過去の日付を選べます。結果を比較する前に、特定ポリシーへのリンク、設定されたカテゴリ制限、部門の選択を確認します。これらのフィルターで、計算に入る割り当てが決まります。

選択日より後に作成された割り当ては除外されます。現在確認済みのレコードでは、確認日をチェックします。確認が選択日より後であれば、その過去時点では未完了または期限超過として扱います。



過去の計算の日付と範囲を選択する

過去の状態のルールを理解する

現在のレコードの条件	計算上の過去の扱い
選択日より後に割り当て	まだ含まれません。
その日以前に確認済み	確認済み。
後日確認済み	期日に応じて割り当て済みまたは期限超過。
期日がそれより前の未完了	期限超過。
それより前の期日がない未完了	割り当て済み。
免除、一時停止、レビューが必要	現在保存された特別な状態を使用し、それ以前の遷移は完全には再構成しません。

比較は、日中の正確なイベント再現ではなく日の境界を使用します。タイムゾーンの境界付近ではブラウザの日付処理が影響する場合があります。同じ日の早い時刻か遅い時刻かによる確認の違いは、このフィルターで別々の履歴スナップショットにはなりません。

主要な割合を計算する

全体のコンプライアンスは、免除と一時停止を除外した対象割り当て数で確認済み割り当て数を割ります。レビューが必要な割り当ては分母に残ります。数えるのは割り当てであり、重複のない従業員ではありません。

たとえば、選択範囲に10件の割り当てがあり、確認済み6件、免除1件、一時停止1件を含む場合、分母は8で、コンプライアンス率は75%です。複数のポリシーを持つ従業員は一件を超える割り当てに寄与し、別の場所に表示される従業員数は異なる指標です。

マトリックス、推移、中央値を比較する

ポリシー別・部門別マトリックスは、現在公開済みまたはレビュー中のポリシーの現行バージョンを使います。全体指標には、選択したポリシー範囲の他のバージョンが含まれる場合があります。そのため、マトリックスの割合を平均しても、全体結果を確実に再現できません。

推移には6か月分の点があり、適宜各月末または選択日を使用します。確認所要時間の中央値は、直前90日以内に割り当てられ、選択日までに確認された完了済み割り当てを使用します。関連するUIの文言はキャンペーンを指しますが、実装はキャンペーン作成日ではなく割り当て日で絞り込みます。

結果が不十分となる場合を知る

警告

今日免除されたレコードは、その過去の日には免除されていなくても過去日計算に影響する場合があります。現在のポリシー状態、現行バージョン、割り当ての部門値もレポートを形作ります。このビューを完全な履歴再構成と説明したり、過去のすべての状態遷移を確定する唯一の根拠として使ったりしないでください。

特定の調査では、割り当て行、確認イベント、バージョン情報、監査項目を保持します。履歴エクスポートは計算された状態を使用しますが、現在保存されている日付フィールドも含みます。過去の状態が割り当て済みの行に、後日の確認タイムスタンプが表示される場合があります。KB10532. ポリシーコンプライアンスの割り当てをExcelにエクスポートする方法を参照してください。

一件の割り当てを手作業で再構成する

1 日目に作成され、5 日目が期限、8 日目に確認された割り当てを例にします。1 日目より前は対象外です。5 日目はまだ期限内です。6 日目には期限超過になります。8 日目には、現在のレコードに確認とその日付が記録されていれば、履歴計算では確認済みとして扱われます。

これは日単位の状態計算の例であり、分単位のイベント履歴ではありません。8 日目の遅い時刻に確認した場合でも、フィルターは選択した日全体を評価します。正確なイベント時刻が重要な場合は、日次の割合から推測せず、証跡のタイムスタンプを調べてください。

次に、現在免除されている割り当てと比較します。その履歴上の扱いは、免除の発効日を調べるのではなく、保存された特別な状態を使います。免除が後で決定されたとしても、過去の日付の表示が現在の状態の影響を受けることがあります。このため、現在のレコードだけに基づくレポートでは、過去の時点に存在したすべての状態を証明できません。

保存した二つのレポートの違いを説明する

同じ対象日について異なる時刻に生成した二つのエクスポートは、関連する現在のレコードが変更されていると異なる場合があります。ポリシーの状態やバージョン、割り当てに保存された属性、特別な状態が結果に影響します。差があれば範囲とレコードを照合し、日付フィルターが無作為にデータを変えていると即断しないでください。

比較のため、選択日、ポリシーとカテゴリの制限、部署、エクスポート時刻を保存します。変更された行からサンプルを選び、割り当てと証跡レコードを調べます。後日の確認、特別な状態の変更、現在のバージョンの違い、その他の範囲変更のどれが原因かを特定してください。

これらの制限を伴う履歴結果を提示するときは、「エクスポート時に利用可能

だったレコードから計算」といった表現を使います。過去のすべての免除や一時停止について断定する唯一の情報源としてダッシュボードを使わないでください。バージョン履歴、確認イベント、管理監査ログはそれぞれ異なる補足情報を提供しますが、いずれも外部から行われ得るすべての SharePoint 変更を記録すると想定してはいけません。

共有前にレポートを検証する

選択日、ポリシーとカテゴリの範囲、部門を記録します。選択日より後に確認された例と免除の例を含む、既知の事例をいくつか手動で照合します。過去についての結論には、計算上の制限も説明します。現在の運用ダッシュボードについてはKB10508. Compliance Dashboard：ポリシー確認を分析する方法を参照してください。